

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	みしまケアセンターそよ風 桜		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivvosyoCd=2270600352-00&ServiceCd=320&Type=search		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内はすべてバリアフリー、手すりが設置され、明るさ・音等・利用者様の視点で快適に暮らして頂けるような生活環境を整え家庭的な雰囲気を感じて頂ける様に努めております。外気浴や散歩に出かけ、気分転換をしていただいたり、ご近所の方と交流をもって頂ける様に日課を組んでおります。また、ディサービス併設によりボランティア様が訪問された際には参加して頂き回部の方との交流も盛んに行っておりまして。常に暖かい手作りの食事やおやつなど常に喜んで頂ける様に工夫し励んでいます。職員も明るく丁寧な個別ケアをするように心がけています。利用者様の体調管理に十分注意し、ご家族様や医療機関と連携を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスと併用型施設であり、施設長は両施設の管理を兼務している。管理者は、施設長との協力のもと、デイサービスのボランティアの受け入れ等を積極的に行い、地域との交流の機会を設けている。
 コロナ禍の現状では、外出や訪問が制限されているが、家族の面会ではLINEアプリを利用したビデオ通話を行うなど、家族との関係継続を図り、また、外出支援として、敷地内の畑での花壇作りなどを利用して、なるべく外気浴の機会を設けるなど、利用者個々の状態に合わせた支援に取り組んでいる。事業所ケアマネジャーと職員は毎月担当者会議を開催し、日々の職員の記録を基に、担当職員の評価、主治医や訪問看護師の情報、家族の意見も加えたカンファレンスに取り組んでおり、利用者の状態に応じた介護計画の作成に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所理念を復唱し確認、実践できるように努めている。	事業所の会議体は、日々行う朝礼、各ユニットで行うユニット会議、ユニットリーダーと管理者およびセンター長(デイサービス施設長兼務)の三役会、デイサービスと合同の全体会議、法人内の他GHとの事業部会議で構成されており、これらの会議を通じて理念の確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により自治会の行事が中止となり参加できていないが職員と一緒に散歩に行かれた際にご挨拶し交流している。	コロナ禍の中、地域との交流は制限される状況であるが、平時には、中学生の職業体験受け入れや併設のデイサービスとともに敷地内の畑を利用した花壇やさつまいも作りを行い、近隣住民との交流の場所としても活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により居宅・デイサービスとの家族会が中止になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響により行政からの緩和対応に伴い書面で開催している。開催後、議事録をご家族に送付する際アンケートを同封し、ご意見やご要望を伺いサービスの向上につなげている。	コロナ禍により、2か月に1回、書面で開催している。事業所の月次報告、広報誌「そよ風」とともに運営推進会議議事録を家族及び委員に送り、要望・意見の聴き取りのためアンケートを同封している。アンケートの集計内容は、次回会議にて報告し、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に出席し毎年11月に行われる。介護の日の市役所の展示に参加している。管理者が認知症キャラバンメイトとして小学校に福祉事業や認知症サポーター養成講座の活動をしている。	市担当者とは、書面開催の運営推進会議等を通じ、コロナ禍でも情報交換ができる関係を築いている。管理者は認知症キャラバンメイトとして近隣小学校での福祉授業の講師や認知症サポーターの育成にも積極的に関わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度 身体拘束委員会の研修のほか全体会議でセンター長による研修が行われている。	「身体拘束適正化委員会」は、2か月に1回、運営推進会議終了後に引き続き開催している。身体拘束防止に関する対策は、月例の三役会で話し合われ、センター全体で取り組んでいる。職員は全体会議にてテーマに沿った研修会を行い、テスト形式で確認する仕組みができています。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は研修を受け利用者様の尊厳を守る事を職員で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者様があり、権利庇護、成年後見人制度の研修を受け知識を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のアンケートや電話等でご意見・ご希望を伺っている。問題のある苦情やご要望は管理者が対応している。	事業所は満足度に関する「家族アンケート」を行っているほか、運営推進会議議事録の送付時には要望や意見欄を設け、常に家族からの要望を聴き取る仕組みができています。LINEアプリを利用したビデオ通話ができるようになり、家族とのコミュニケーションに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス・日々の業務の中で意見交換し反映している。	管理者は、職員の意見や要望について、日々のミーティング時やユニット会議の場を活用し、常に聴く機会を設けており、問題が発生した場合は迅速に対応できるよう取り組んでいる。年1回の面談の場では、管理者と職員が課題の解決に向けて話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め給与水準は個々の能力を評価し、契約更新時、賞与考課に反映している。日々の業務の中で職員と意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を受ける機会を設けて適材適所の役割と苦手の克服は成功体験の情報を共有しレベルアップを図っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そよ風 全体のオンライン研修や山梨・静岡事業部のリモートによるGH連絡会など取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや日常生活の中で要望や困っていることを傾聴し、サービスに生かし信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に思っていること要望を運営推進会議のアンケートや電話等で傾聴しサービスに生かし信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを傾聴し必要とされているサービスを見極め居宅のケアマネージャーと連携をとり対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作り、ご利用者様それぞれに役割をもって頂く支援をしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と、ご利用者様を中心に話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により、ご家族様との外出や外泊が難しい状況ではあるが、電話やビデオ通話・手紙等で関係の継続を支援している。	コロナ禍の現状では、訪問・面会を制限している状況であり、ビデオ通話や、月次の請求書等の送付の際に利用者個々の写真や様子を記した手紙を同封して、家族との関係継続を図っている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行い利用者様同士コミュニケーションをとって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様が行政手続き等の依頼や介護相談に来られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の家事や食事、トイレ、お風呂で利用者様と一対一での関わりや環境づくりに努め、お話を表情、仕草から希望や意向をくみとり把握に努めている。	入居時に利用者や家族からの思いや意向を丁寧に聴き取り、フェイスシートに整理されている。職員は日々の支援の中から、利用者の変化に気づいたことは連絡ノートに記して、情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の面談や居宅支援事業所からの情報により把握している。入居後は、ご本人やご家族様から、直接お話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りやケアプラン・カンファレンスで情報を共有し現状のはくに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画更新者や見直しの必要なお利用者様について担当者会議を行っている。ご本人様、ご家族様の思いや往診時の主治医からの指示をふまえ介護計画書を作成している。	ケアマネジャーを中心に、毎月担当者会議を開催し、介護援助計画表等の職員の日々の記録を基に、担当職員の評価、主治医や訪問看護師の情報、家族の意見も加えたカンファレンスに取り組んでおり、利用者の状態に応じた介護計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや連絡ノート、個人記録に細かく記入し皆で情報を共有している。モニタリング・アセスメントを行い介護計画の見直しをしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し経済状況、ご家族様の健康状態も考慮し可能な限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響によりデイサービスのボランティア訪問の受け入れができていないがボランティアの訪問時には楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4病院から月に1~2回、往診に来られている。皮膚科や眼科等のご家族様対応にて受診される。受診の際は日々の状況を、ご家族に報告し医師に伝えて頂いている。必要がある利用者様には歯科医師の往診があり口腔ケアの指導も受けられている。	主治医は月1回~2回の往診、看護師は週1回訪問し、利用者の健康管理にあっている。入居前からのかかりつけ医への通院支援は家族の協力を得て継続して行い、これらの健康に関する情報は職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連携し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとサマリーや電話で情報交換し入院中の様子、経過、退院時の対応と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設での対応については主治医が今後の方針について、ご家族様に説明し同意を得たうえで職員と意見交換しながら対応していく。施設では入居契約時に看取りについて説明し指針に同意を頂いている。	重度化や終末期の事業所の対応については、入居時に利用者・家族に説明をして確認を得ているが、緊急時には再度説明をして、看取りについてもさらに家族の同意を得る仕組みがある。看取りに関する指針・マニュアルを整え、看取りの対応に関する職員研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで職員には周知しているがスキルには個人差も見られる。応急手当、初期対応訓練は今後も続けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水総合、火災、夜間想定と7月と11月に行っている。	コロナ禍により地域住民と連携した訓練はできていないが、年2回の災害対策訓練は「火災」「夜間避難」を実施し、職員の情報共有を図っている。災害備蓄品は3日間を目途に、本社管理により備えている。発電機も備え、併設のデイサービスとの連携を図りながら、災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定はせず相手の立場に立ってお話を傾聴している。一対一での関わりやすキンシップが図れる時間を設けている。	プライバシー保護に関し、定期的研修や事業所内のトイレ・風呂場に掲示して、常に配慮した対応を心掛けている。職員の課題が散見された場合は、管理者やユニットリーダーが都度注意を行い、朝礼時やユニット会議等の場で情報を共有して、問題の発生阻止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通は難しいが、声、表情等で利用者様の訴えをくみ取り日常生活の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望を伺いながら身だしなみやおしゃれをして頂く様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に調理方法や味付けなど伺い、できる限り希望に応じている。野菜の下処理や、お盆、食器拭き等 ご利用者様ができることは手伝って頂いている。敷地内に畑があり野菜の収穫を体験して頂いている。年に2回づつ嗜好調査・満足度調査のアンケートを行っている。	食事は、法人本部フードサービス推進部の献立を基に手作りで提供されており、利用者も下ごしらえや配膳、下膳を手伝っている。敷地内の畑の野菜の収穫やおやつレクを行い、食事を楽しむ工夫を心掛けている。食事の嗜好・満足度調査を行い、利用者の希望がメニューに反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。食事・水分量が少ない時は時間や味をかえて提供し支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保ち状態を把握している。状況に応じて、ご家族様に相談し歯科受診をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をし、ご利用者様の排泄パターンの把握に努め自立に向けた支援を行っている。	「排泄記録」はタブレットを活用して作成され、利用者個々の情報を共有している。排泄パターンを把握して先回りケアを心掛け、トイレへの誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や牛乳など飲み物や食べ物を工夫し自然排便を促す様に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様のご希望に合わせて、ゆっくり入浴の時間を楽しんで頂いている。	基本的に、週2回午前中の中の入浴支援となっているが、2か所の浴槽を活用して、入浴希望者には柔軟に対応している。仲の良い者同士で入浴することもあり、職員は利用者の状態に合わせて、入浴をゆっくり楽しめるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に注意し安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有し正しく服薬して頂けるよう支援している。服薬が困難な時は主治医に服薬しやすい形状に変更して頂けるよう相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や表情から、ご利用者様の思いをくみとり、楽しみを見つけて頂ける様に支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と散歩に出かけている。コースはご利用者様の体調を考慮しながら、ご希望を伺って決めている。コロナウイルスの影響がないときは、ご家族様に、ご協力頂き外食や外出の機会を提案させて頂いていた。	コロナ禍の中、散歩等の外出支援が制限される状況ではあるが、敷地内の畑やベランダでの花壇作りなどを活用して、なるべく外気浴ができるように工夫している。平時は、家族の協力を得ながらの外食や、川沿いの花見を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理している。必要な時は職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際には、ご家族様に電話やビデオ通話、手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち穏やかな雰囲気を作るように工夫している。温度や湿度は計器で管理し適温を維持するように支援している。	コロナ感染対策のため換気や消毒に注意をはらいながら温度・湿度管理を行い、快適に過ごせる環境作りに努めている。広いベランダやリビングに置いたソファを活用し、利用者が居心地よく過ごすことができるように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、気の合う、ご利用者様同士、ソファやお互いの居室で会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みのものを、ご家族に持参して頂き、居室内が安心して過ごせる場所となるように支援している。	居室には、ベッド、エアコン、比較的大きなクローゼットが設置されていて、毎朝職員が部屋の掃除を行い、清潔に保たれている。利用者は使い慣れた家具やテレビ等を持ち込み、落ち着いて過ごせる居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境 整備等をこまめに行い安全な環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	みしまケアセンターそよ風 萩		
所在地	静岡県三島市萩196-1		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600352-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内はすべてバリアフリー、手すりが設置され、明るさ・音等・利用者様の視点で快適に暮らして頂けるような生活環境を整え家庭的な雰囲気を感じて頂ける様に努めております。外気浴や散歩に出かけ、気分転換をしていただいたり、ご近所の方と交流をもつて頂ける様に日課を組んでおります。また、デイサービス併設によりボランティア様が訪問された際には参加して頂き回部の方との交流も盛んに行っておりまして。常に暖かい手作りの食事やおやつなど常に喜んで頂ける様に工夫し励んでおります。職員も明るく丁寧な個別ケアをするように心がけています。利用者様の体調管理に十分注意し、ご家族様や医療機関と連携を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所理念を復唱し確認、実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により自治会の行事が中止となり参加できていないが職員と一緒に散歩に行かれた際にご挨拶し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により居宅・デイサービスとの家族会が中止になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響により行政からの緩和対応に伴い書面で開催している。開催後、議事録をご家族に送付する際アンケートを同封し、ご意見やご要望を伺いサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に出席し毎年11月に行われる。介護の日の市役所の展示に参加している。管理者が認知症キャラバンメイトとして小学校に福祉事業や認知症サポーター養成講座の活動をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度 身体拘束委員会の研修のほか全体会議でセンター長による研修が行われている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は研修を受け利用者様の尊厳を守る事を職員で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者様があり、権利庇護、成年後見人制度の研修を受け知識を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のアンケートや電話等でご意見・ご希望を伺っている。問題のある苦情やご要望は管理者が対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務の中で意見交換し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め給与水準は個々の能力を評価し、契約更新時、賞与考課に反映している。日々の業務の中で職員と意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を受ける機会を設けて適材適所の役割と苦手の克服は成功体験の情報を共有しレベルアップを図っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そよ風 全体のオンライン研修や山梨・静岡事業部のリモートによるGH連絡会など取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや日常生活の中で要望や困っていることを傾聴し、サービスに生かし信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていることや不安に思っていること要望を運営推進会議のアンケートや電話等で傾聴しサービスに生かし信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを傾聴し必要とされているサービスを見極め居宅のケアマネジャーと連携をとり対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作り、ご利用者様それぞれに役割をもって頂く支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と、ご利用者様を中心に話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が同伴され友人・知人の方が面会に来られている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行い利用者様同士コミュニケーションをとって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様が行政手続き等の依頼や介護相談に来られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の家事や食事、トイレ、お風呂で利用者様と一対一での関わりや環境づくりに努め、お話や表情、仕草から希望や意向をくみとり把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の面談や居宅支援事業所からの情報により把握している。入居後は日常際から、ご本人やご家族様から、お話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りやケアプラン・カンファレンスで情報を共有し現状のはくに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、計画更新者や見直しの必要なご利用者様について担当者会議を行っている。ご本人様、ご家族様の思いや往診時の主治医からの指示をふまえ介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや連絡ノート、個人記録に細かく記入し皆で情報を共有している。モニタリング・アセスメントを行い介護計画の見直しをしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し経済状況、ご家族様の健康状態も考慮し可能な限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響によりデイサービスのボランティア訪問の受け入れができていないがボランティアの訪問時には楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4病院から月に1~2回、往診に来られている。皮膚科や眼科等はご家族様対応にて受診される。受診の際は日々の状況を、ご家族に報告し医師に伝えて頂いている。必要がある利用者様には歯科医師の往診があり口腔ケアの指導も受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間連携し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとサマリーや電話で情報交換し入院中の様子、経過、退院時の対応と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設での対応については主治医が今後の方針について、ご家族様に説明し同意を得たうえで職員と意見交換しながら対応していく。施設では入居契約時に看取りについて説明し指針に同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで職員には周知しているがスキルには個人差も見られる。応急手当、初期対応訓練は今後も続けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水総合、火災、夜間想定と7月と11月に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定はせず相手の立場に立ってお話を傾聴している。一対一での関わりやスキミングが図れる時間を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通は難しいが、声、表情等で利用者様の訴えをくみ取り日常生活の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望を伺いながら身だしなみやおしゃれをして頂く様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に調理方法や味付けなど伺い、できる限り希望に応じている。野菜の下処理や、お盆、食器拭き等 ご利用者様ができることは手伝って頂いている。敷地内に畑があり野菜の収穫を体験して頂いている。年に2回づつ嗜好調査・満足度調査のアンケートを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。食事・水分量が少ない時は時間や味をかえて提供し支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保ち状態を把握している。状況に応じて、ご家族様に相談し歯科受診をして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をし、ご利用者様の排泄パターンの把握に努め自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や牛乳など飲み物や食べ物を工夫し自然排便を促す様に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様のご希望に合わせて、ゆっくり入浴の時間を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に注意し安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を共有し正しく服薬して頂けるよう支援している。服薬が困難な時は主治医に服薬しやすい形状に変更して頂けるよう相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や表情から、ご利用者様の思いをくみとり、楽しみを見つけて頂ける様に支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と散歩に出かけている。コースはご利用者様の体調を考慮しながら、ご希望を伺って決めている。コロナウイルスの影響がないときは、ご家族様に、ご協力頂き外食や外出の機会を提案させて頂いていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理している。必要な時は職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があった際には、ご家族様に電話やビデオ通話、手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち穏やかな雰囲気を作るように工夫している。温度や湿度は計器で管理し適温を維持するように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、気の合う、ご利用者様同士、ソファやお互いの居室で会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みのものを、ご家族に持参して頂き、居室内が安心して過ごせる場所となるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境 整備等をこまめに行い安全な環境づくりに努めている。		